(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3955355号
(P3955355)
(45)発行日　平成19年8月8日(2007.8.8)　(24)登録日　平成19年5月11日(2007.5.11)

(51)Int.Cl.		F I		
B65D 5/42	(2006.01)	B65D	5/42	G
B65D 85/60	(2006.01)	B65D	85/60	
B65D 5/50	(2006.01)	B65D	5/50	101Z

請求項の数 1　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平9-154930
(22)出願日　平成9年6月12日(1997.6.12)
(65)公開番号　特開平11-1220
(43)公開日　平成11年1月6日(1999.1.6)
審査請求日　平成16年3月8日(2004.3.8)

(73)特許権者　000002897
大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町一丁目１番１号
(74)代理人　100062144
弁理士　青山　葆
(74)代理人　100079245
弁理士　伊藤　晃
(72)発明者　藤原　治郎
東京都新宿区市谷加賀町一丁目１番１号
大日本印刷株式会社内
(72)発明者　鹿屋谷　俊光
東京都品川区上大崎２丁目２４番９号アイケイビル　ワーナー・ランバート株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】包装用箱及び該箱と板状内容物とからなる包装体

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
包装用箱(11)内に、板状内容物(20)を立てた状態で前後２列に重ねて収納してなる包装体であって、
上記包装用箱(11)は、後列の板状内容物(20)を支持する支持部材(15)を内部に備えていて、
当該支持部材(15)は、後列の板状内容物(20)の背面に接する背壁(15a)と、同板状内容物(20)の前面に接する前壁(15b)と、背壁(15a)と前壁(15b)の下端を連接するとともに同板状内容物(20)の下端面を受ける底壁(15c)とを備えていて、
底壁(15c)を包装用箱(10)の底面(11c)から浮かせた位置で、背壁(15a)が包装用箱(10)の背壁(11c)の内面に貼着されて、後列の板状内容物(20)は、前列の板状内容物(20)よりも高い位置となるように段状に支持されており、
後列の板状内容物(20)の背面の一部が、支持部材(15)の背面壁(15a)に仮着されたことを特徴とする、包装体。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、ガムやチョコレートのような板状の内容物を立てた状態で前後（内容物の厚さ方向）に複数列に並べて収納するための包装用箱と、この包装用箱に板状内容物を前後複数列に収納してなる包装体に関する。

【０００２】
【従来の技術】
従来より、この種の包装体として、例えば、包装用箱の中にガムを数枚ずつ前後に二列に並べて収納した物が販売されている。この包装体では、前後列で二枚重なったガムを一枚だけ摘んで箱から取り出すのが難しく、ガムの包装紙同士の摩擦や、一枚のガムの包装紙の端の折り曲げ部分がもう一枚のガムの包装紙に引っ掛かることなどが原因で、二枚を一緒に取り出してしまうことがあった。また、ガムを一枚取り出した後は、箱の中に隙間ができるため、残りのガムが箱の中で動いて乱れるので取り出しにくくなるとともに、異音が発生するという問題もあった。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
したがって、本発明の解決すべき技術的課題は、包装用箱にガム等の板状内容物を前後複数列に収納した包装体において、板状内容物の一枚取り出しを確実に行えるようにし、さらに、板状内容物を一枚取り出した後でも箱の中で残りの内容物が動きにくくして取り出し易いようにすることである。
【０００４】
【課題を解決するための手段及び作用・効果】
本発明に係る包装用箱は、板状内容物を立てた状態で前後（内容物の厚さ方向）に重ねて複数列に収納するための包装用箱であって、上述の技術的課題を解決するため、箱の底面に、板状内容物の下端面を受けて、板状内容物を各列毎に異なる高さに支持する段差が形成され、この段差が、前段から後段に向かって高くなるように形成されたことを特徴としている。
【０００５】
上記構成においては、板状内容物を支持する箱の底面に段差を形成することによって、板状内容物の上端の高さが前列よりも後列側で高くなるようにしているので、つまり上端の面が同一面に揃わないので、板状内容物を一枚ずつ摘みやすいうえ、板状内容物をガムやチョコレートのように一枚ずつ包装したものにした場合でも、前後の板状内容物間の接触面積が段差分だけ少ないので、包装紙同士が引っかかりにくくなり、一枚ずつ取り出すのが容易になる。
【０００６】
上記構成においては、段差を、箱の底面に固着した底上げ部材により構成することができる。この場合、段差を２段にして、底上げ部材を、少なくとも段差の後段に配置した板状部材により構成することができる。また、段差を２段よりも多い段数にして、底上げ部材を、段差の少なくとも２段目以降に関して各段差毎に配置した高さの異なる複数の板状部材により構成したり、段差の少なくとも２段目以降の段数に形成された階段状部材により構成したりすることもできる。
【０００７】
上記各構成の包装用箱を用いて包装体を構成する場合、後列の板状内容物の背面の一部を、包装用箱の背壁の内面に仮着することが好ましい。この仮着は、板状内容物の引き出しは容易で支障のない程度の接着をいう。このように構成すれば、前列の板状内容物を取り出しても後列の板状内容物の位置がずれないので、内容物が全体的に動いてしまうのを防止できる。
【０００８】
また、上記構成においては、板状内容物の背面に接する背壁と、板状内容物の前面に接する前壁と、背壁と前壁の下端を連接するとともに板状内容物の下端面を受ける底壁とを備えた支持部材の背壁を、底壁が包装用箱の底面から浮く位置にして包装用箱の背壁の内面に貼着し、支持部材の底壁で段差の後段を構成することができる。この場合、段差は２段となる。
【０００９】
このように構成しても、板状内容物は後列の方が前列よりも高い位置で支持されるので、

一枚ずつ摘みやすく、また、支持部材の前壁が板状内容物の前列と後列の間に位置し、両者を仕切っているので、ガム等の包装紙同士がほとんど引っかかることがなく、板状内容物を簡単に一枚だけ取り出すことができる。

【００１０】

また、上記構成においては、後列の板状内容物の背面を、支持部材の背面壁に貼着することが好ましく、そうすれば、前列の板状内容物を取り出したときに後列の板状内容物の位置がずれないので、箱の中で内容物が動いて異音が発生するのを防止できる。

【００１１】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明に係る包装用箱と、この箱に板状内容物を前後複数列に並べて詰めた構成の包装体の実施の形態について、図１～図７を参照して詳細に説明する。

【００１２】

図１は、この包装体１を開いた状態の斜視図である。図において、包装体１は、包装用箱１０と、ガムやチョコレートなどの板状の内容物２０とから構成されている。包装用箱１０は、板状内容物２０を立てた状態で前後に重ねて二列に収納するように構成されている。この包装用箱１０は、断面図である図２（便宜上、箱の板厚は一本の太い実線で表している）に示すように、外箱１１と底上げ部材１２により構成されている。外箱１１は、図３に展開図を示した一枚のブランクを折り曲げて形成されている。

【００１３】

外箱１１のブランクは、長方形に形成された背面壁１１ａを中心にして、その四辺に、折り罫ａ，ｂ，ｃ，ｄを介して上壁１１ｂ，底壁１１ｃ，左右の側壁１１ｄ，１１ｅが連接し、さらに折り罫ｅ，ｆ，ｇ，ｈを介して、それぞれに正面壁構成片１１ｆ，１１ｇ，１１ｈ，１１ｉが連接している。側壁１１ｄ，１１ｅに連接した構成片１１ｈ，１１ｉは幅の狭い縦長長方形の上部コーナーを面取りした形状で、図１に示すように箱１１を組み立てて蓋（上壁１１ｂに連接した正面壁構成片１１ｆ）を開いたときに内容物２０が見えるようになっている。

【００１４】

底壁１１ｃに連接した構成片１１ｇは側壁１１ｄ，１１ｅに連接した構成片１１ｈ，１１ｉの上に重ねて折り曲げられ（側壁側の構成片１１ｈ，１１ｉと底壁側の構成片１１ｇは接着することができる）、上壁１１ｂに連接した構成片１１ｆは、さらにその上に重ねて折り曲げられる。また、上壁側の正面壁構成片１１ｆは先端に差込片１１ｊを有し、底壁側の正面壁構成片１１ｇは、この差込片１１ｊを挿入するためのスリット１１ｋを有している。

【００１５】

一方、外箱１１は、図２に示すように、底壁１１ｃの内面が板状内容物２０の下端面を受けるように構成され、この箱１１の底面に装着された底上げ部材１２が、板状内容物２０を各列毎に異なる高さに支持する段差を構成している。この段差は、前段よりも後段が高い位置になるように形成されている。底上げ部材１２は、列の後段にのみ固定された段ボールなどの厚紙（板状部材）により構成されている。また、後列の板状内容物２０の一部（点）は、個所Ａのところで外箱１１の背面壁１１ａの内面に仮着されている。

【００１６】

上記構成においては、板状内容物２０を支持する外箱１１の底面１１ｃに段差を形成することによって、板状内容物２０の高さが前列よりも後列側で高くなるようにしているので、板状内容物２０を一枚ずつ摘みやすいうえ、板状内容物２０として一枚ずつ包装したガムやチョコレートを収納した場合でも包装紙同士が引っかかりにくくなるので、一枚ずつ取り出すのが容易になる。特に、後列の内容物２０を外箱１１の背面壁１１ａの内面に仮着しているので、前列の内容物２０だけを取り出すのが容易で、また前列の内容物２０を取り出したときに後列の内容物２０が箱１１の中で動くことも防止できる。

【００１７】

なお、上記構成においては、段を２段にして、底上げ部材１２を後段の内容物２０のみを

持ち上げる一枚の板状部材で構成しているが、前段に後段の底上げ部材１２よりも高さの低い厚紙を固定することも可能である（図２に符号１３で示した仮想線を参照）。また、段差を２段よりも多い段数にすることも可能であり、その場合、底上げ部材は、段差の少なくとも２段目以降に関して各段差毎に配置された高さの異なる複数の板状部材により構成することができる。例えば、３段の場合は、図４に示すように後ろ２段を高さの異なる板状部材１２，１３で構成したり、または図示していないが、３段すべてを高さの異なる三枚の板状部材で構成することができる。

【００１８】

また、上記構成においては、外箱１１の底面に段差を設けるために板状部材１２，１３を用いているが、底上げ部材は、板状部材１２，１３の代わりに、図５に示すように、一枚の紙を段差の少なくとも２段目以降の段数に折り曲げて形成した階段状部材１４により構成することができる。この部材も、板厚を一本の太い実線で表している。この場合、厚紙で形成するのと比較して、段差が３段以上の多段になっても、その段差を一つの部材で構成できるというメリットがある。

【００１９】

次に、図６及び図７を用いて、本発明の第２実施形態について説明する。

【００２０】

図６の断面図は図２の断面図と対応しているが、この例では、図２において用いていた底上げ部材１２の代わりに、板状内容物２０を懸垂支持するための支持部材１５を用いている。支持部材１５は、斜視図である図７に示すように、板状内容物２０の背面に接する背壁１５ａと、板状内容物２０の前面に接する前壁１５ｂと、背壁１５ａと前壁１５ｂの下端を連接するとともに板状内容物２０の下端面を受ける底壁１５ｃとを備えている。この支持部材１５は、背壁１５ａが、その底壁１５ｃを外箱１１の底面１１ｃから浮かせた位置にするように外箱１１の背壁１１ａの内面に貼着されている。そして、支持部材１５の底壁１５ｃが、段差の後段を構成するようになっている。また、後列の板状内容物２０の背面が、この支持部材１５の背壁１５ａに貼着されている。なお、支持部材１５は、真空成形品、樹脂シート、積層紙、段ボール、または発泡シートなどから形成することができる。

【００２１】

このように構成しても、上記実施形態と同様に、板状内容物２０の高さが前列よりも後列側で高くなるので、板状内容物２０を一枚ずつ摘みやすいうえ、板状内容物２０をガムやチョコレートにした場合でも包装紙同士が引っかかりにくくなり、一枚ずつ取り出すのが容易になる。また、後列の内容物２０を外箱１１の内面に接着しているので、前列の内容物２０だけを取り出すのが容易で、前列の内容物２０を取り出したときに後列の内容物２０が箱の中で動くことも防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】　本発明に係る包装体の一実施形態を示す斜視図である。

【図２】　図１の包装体の断面図である。

【図３】　図１の包装体の外箱を組み立てるためのブランクの展開図である。

【図４】　図２の変形例を示す断面図である。

【図５】　図２の別の変形例を示す断面図である。

【図６】　本発明に係る包装体の第２実施形態を示す断面図である。

【図７】　図６の包装体に用いている支持部材の斜視図である。

【符号の説明】

１　包装体

１０　包装用箱

１１　外箱

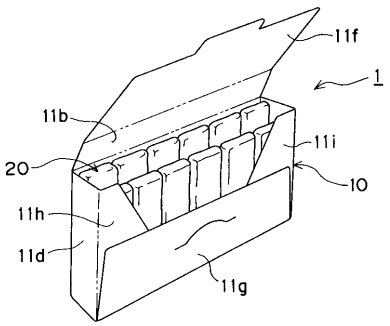
１１ａ　背面壁

１１ｂ　上壁

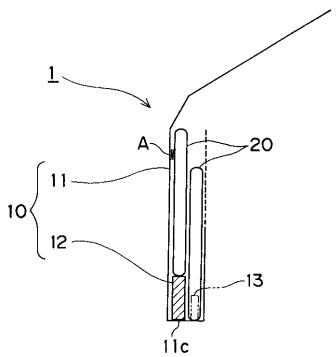
１１ｃ　底壁

１１ｄ　側壁
１１ｅ　側壁
１１ｆ，１１ｇ，１１ｈ，１１ｉ　正面壁構成片
１１ｊ　差込片
１１ｋ　スリット
１２，１３　板状部材（底上げ部材）
１４　階段状部材（底上げ部材）
１５　支持部材
１５ａ　背壁
１５ｂ　前壁
１５ｃ　底壁

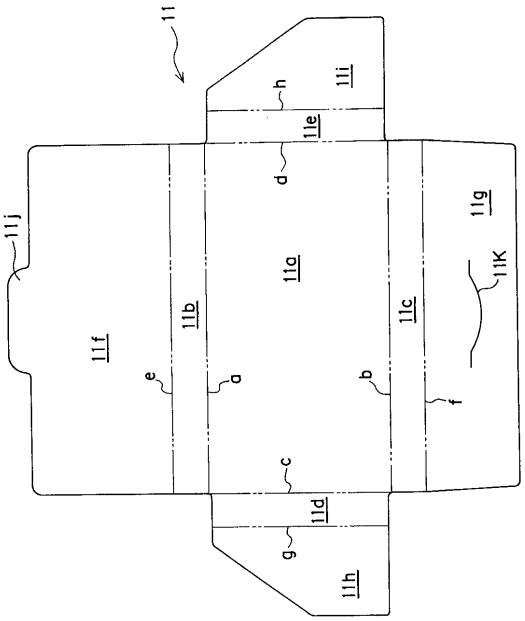
【図１】



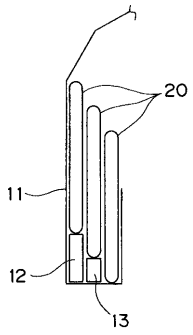
【図２】



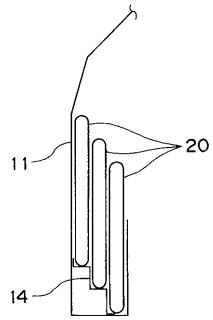
【図３】



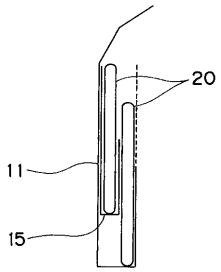
【図４】



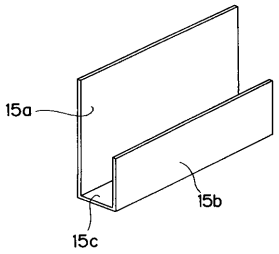
【図５】



【図６】



【図７】



フロントページの続き

審査官　柳田　利夫

(56)参考文献　実開平０５－０８９２２４（ＪＰ，Ｕ）
特公昭４９－００３７９９（ＪＰ，Ｂ１）
実開昭６２－１５９４２２（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０５９２１５（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－０５８７９９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65D 5/00
B65D 85/60